

第51号



みどりの風

目次

2020年度事業報告・収支報告書 …………… 2頁～4頁

2021年度事業計画・事業予算書 …………… 5頁～7頁

《会員の皆さんからの投稿》

竹田 善隆「私と東邦学園(3)」…… 8頁～14頁

丸山 恵也「戸崎賢二さんを偲んで」… 15頁～16頁

編集後記…………… 16頁



題字：森井 勝也

写真：奥田 緑

「元気をありがとう！」

(東邦マーチングバンド：)

2021年7月25日於オ

アシス21)(上)

「開花」(下)



はじめに

2020年、年明けから始まった新型コロナウイルス感染症の拡大状況は様々な「発見」をもたらしたと思う。個人と国家・政治がこれほどまでに接近した状況というのは嘗てなかっただろう。そして人と人との距離感というものに於いても同様である。1970年代「人間疎外」が真正面から論じられた。そして「終わりなき日常」とどう向き合うかが90年代末まで話題になっていたことを思い出す。

言わずもがな、今、私たちは「人間があるべき本質を失う状態」を生活の中で日々実感しつつあるのではないだろうか。換言すれば、その中で「日常」では見過ごされてきた核となるものと対峙しているのかもしれない

フレンズ・TOHO 設立趣旨に基づきその教育的資源を活かし、時代を問い、広い学びの場を提供するところに面目がある。希望と指針を与える教育的企画をうち、貢献すべきときではないかと考える。

1. 学習・研修の充実 (会則第2条【趣旨・目的】・第3条【事業】に基づいて)

(1) 講演会

計画：人々の心に残る普遍的な内容・時局のテーマ・講師による講演会を企画し、会員の学びの場とするとともに、広報のツールとして活用する。

※講演は、僅か1回の企画となったが、下記小室淑恵氏のご厚意でリモートでの勉強会「新次元の経営にジャンプアップ～働き方改革をどこまで加速できるか」のご紹介を受け広報。法人会員のご参加を得てご援助申し上げることができた。

第1回目 2020年8月25日(火)

13:30-16:30

第2回目 2020年8月31日(月)

13:30-16:30

※2月の小室氏のZOOM講演はアーカイブ視聴も交え100名を超える方々の参加を得て、一定の役割は果たせたのではないかと総括し

ている。まさに「関係の質」こそが経営、働き方のみならず私たちの日常においていかに切実かつ重要なことなのかの直言は、明快かつ秀逸。

① 第1回講演会 (総会開催予定とした)

◎日時：2020年6月19日

◎講師：小室 淑恵 氏

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため取りやめとした。

② 第2回講演会

※同上

③ 第3回講演会 (名刺交換会とセット開催予定とした)

◎日時：2021年2月19日(金)

◎講師：小室 淑恵 氏

◎演題：「『関係の質向上』で働き方改革！
業績とモチベーションが上がる
残業ゼロの仕事術」

※オンライン形式で実施。名刺交換は小室氏とのwebでのみ実施。

(2) 研修・講座企画

計画：会員の方々を中心に、多様な興味・関心に応える研修会・講座を企画し、研鑽を積み重ねる機会とするとともに交流の場としても重視する。また、より多くの会員や地域の皆さんに参加していただくために、年間計画を立てて準備を進める。

※下記企画は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため取りやめとした。

① 自然と親しむ会

② 法人会員向け特別講座

③ 個人会員・家族向け講座、地域向け講座

④ その他

◎大学のトレーニングセンターなどの活用

◎法人会員あるいは高大の専門性を活かした「一日研修」企画

2. 交流の充実 (会則第2条【趣旨・目的】・第3条【事業】に基づいて)

(1) 名刺交換会

計画：法人会員同士が名刺交換を通じてビジネ

スの場を拡大する機会とするとともに、法人向け「講演会」をセットで企画する。

※2月小室淑恵氏講演会記述に同じ。

(2) TOHO スポーツイベント

計画：学生・地域が協力し企画・運営する「スポーツイベント」の支援を行う。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため取りやめとした。

3. 学園の教育活動支援 (新聞誌)

(1) 学内企業展・インターンシップ企画への協力

計画：法人会員・大学と連携し学内企業展、インターンシップ受け入れの橋渡しを行う。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため取りやめとした。

(2) 大学・高校の各クラブへの激励と支援

計画：大学・高校のクラブ活動を支援するため、全国大会に出場するクラブに対して、激励金を支給する。

※高校・空手道部へ激励金支給。3月選抜大会 @東京

(3) 高校の中学生対象の英語「スピーチコンテスト」への協賛

計画：高校で開催される中学生対象の英語スピーチコンテスト協賛。

※これまでの上記企画をリニューアル。改称・内容もグレードアップしてより主体的に取り組める「プレゼンテーションコンテスト」に協賛、援助金を支給。出場校23校・出場者60名

(4) 学園主催の「納涼音楽祭」への協賛

計画：恒例となった8月最終土曜日高校中庭開催の援助・充実に貢献する。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため取りやめとした。

(5) その他

計画：大学・高校のその他の教育活動に対して後援・支援する。

※新型コロナウイルス感染症拡大による家計急変の方々への奨学金支給を急遽学園に提案。高校・大学100万円ずつを寄付。その支援に充てていただいた。

4. 会報「みどりの風」と会員名簿の発行 (新聞誌)

(1) 会報「みどりの風」の発行

計画：会報49号・50号の発行。会員の方々の寄稿をもとに紙面づくりの改善を追求する。

※49号を8月、50号の発行を2月に発行。会員に対して寄稿・画像をご依頼。新規加入法人会員の特集などを企画。紙面の改善に努めた。

(2) 会員名簿の発行

計画：総会開催時発行とする。

※法人会員の年度始めのご担当者異動等考慮し総会時発行としたが、8月の広報誌とともに送付させていただいた。

(3) HP の充実

計画：HP を定期的に更新し、充実を図る。

※事務局担当者にて速報性を重視し記事を更新、また参加集約もwebの有効活用でオンライン講演も円滑にすすめることが出来た。

5. 会員拡大に取り組む

計画：独自のリーフレットを作成し適宜フレンズの広報・加入促進等に努める。

※リーフレットは未着手だが、新規会員拡大では法人会員を中心に働きかけを継続してきた。

6. 組織体制・事務局の改善に努める

計画：安定的な役員体制の整備・事務局体制の見直しを図る。

※3月18日学内役員内での改善策検討会を設け議論、次年度計画に盛り込むこととした。

- 主な議題は、1, 学内役員の事務局配置
- 2, 学園寄付金を見直し第2回講演企画に充てる
- 3, 懇親会を重視等

以上

集いと学び空間をデザインする

axona AICHI

教育施設用家具

愛知株式会社
www.axona-aichi.com



〒461-0003 名古屋市東区筒井3-27-25
TEL:052-935-6226 FAX:052-935-6220

2020年度 フレンズ・TOHO 収支報告書

2020年4月1日から
2021年3月31日まで

(単位：円)

項 目		予 算	決 算	予算との差	備 考	
収入の部	①前期繰越金	2,797,186	2,797,186	0		
	②年会費	法人会員	2,700,000	2,480,000	▲ 220,000	予算 135 社 決算 124 社
	〃	個人会員	760,000	725,000	▲ 35,000	予算 152 名 決算 145 名
	③入会金	法人会員	50,000	20,000	▲ 30,000	予算 5 社 決算 2 社
	〃	個人会員	30,000	24,000	▲ 6,000	予算 10 名 決算 8 名
	④広告収入	みどりの風 49号・50号分	900,000	795,000	▲ 105,000	
	⑤受取利息		100	86	▲ 14	
	⑥講座・研修参加費・寄付金		200,000	5,000	▲ 195,000	
合 計		7,437,286	6,846,272	▲ 591,014		

項 目		予 算	決 算	予算との差	備 考	
支出の部	①事業費	講演料・研修・親睦活動	900,000	10,000	▲ 890,000	
	〃	学園活動支援	800,000	800,000	0	
	〃	その他(援助金・祝金等)	330,000	60,000	▲ 270,000	
	〃	総会・懇親会・名刺交換会	1,500,000	1,968,000	468,000	
	②会議費	運営委員会・役員会等	200,000	0	▲ 200,000	
	③印刷費	会報	330,000	341,000	11,000	
	〃	名簿作成費	80,000	132,825	52,825	
	〃	封筒・振込用紙等	60,000	69,300	9,300	
	④通信費	会報誌発送・webメンテナンス	350,000	206,564	▲ 143,436	
	⑤事務費	事務費・交通費・手数料等	50,000	59,578	9,578	
	⑥予備費		200,000	0	▲ 200,000	
	⑦設立 30 年記念事業積立金		200,000	200,000	0	
	⑧期末未払金	webメンテナンス料(2019年度分)	60,000	60,000	0	
	⑨次期繰越金		2,437,286	2,939,005	501,719	
合 計		7,497,286	6,846,272	▲ 651,014		

※奨学金基金積立預金

項 目		収 入	支 出	残 高	
収支表	前期繰越金	2,002,131		2,002,131	
	受取利息	12		2,002,143	
	緊急支援金	奨学金用(大学)		1,000,000	1,002,143
	緊急支援金	奨学金用(高校)		1,000,000	2,143
	事務費	手数料		1,760	383
	次期繰越金				383
	合 計		2,002,143	2,001,760	383

記念事業積立金残高	1,000,000
※奨学金基金積立預金残高	383
次期繰越金	2,939,005
合 計	3,939,388

郵貯銀行	1,598,448
三菱 UFJ 銀行(定期)	1,000,135
豊田信用金庫(普通)	383
三菱 UFJ 銀行(普通)	38,434
三井住友銀行(普通)	1,188,263
現金	113,725
合 計	3,939,388

4才のお子様から 無料体験教室 随時受付中

東邦スイミングクラブ

初心者～選手育成 トライアスロン教室

〒465-8516 名古屋市名東区平和が丘3-11 TEL052-782-1266


AKASHI
School Uniform
Company

株式会社 明石スクールユニフォームカンパニー

名古屋支店 / 〒452-0839 愛知県名古屋市長見町120番地

TEL:052-506-7811 FAX:052-501-7272 URL:www.akashi-suc.jp



はじめに

昨年度同様、新型コロナウイルス感染症拡大により会合での議案承認を割愛せざるを得ない点を再びご了解いただきたい。既に予算執行を一部行わねばならない事情もあり、総会自体は延期としましたが、恐縮ながらご承認を賜り本年度の活動をすすめさせていただきます。

定期総会延期について

本年度の6月の定期総会を見送ったことによる、諸手続については、事業報告・会計報告・一部役員更新・事業計画・予算を『みどりの風』、HPに掲載しご承認をいただく暫定的措置をとらせていただきたくよろしくお祈りしたい。2021年11月5日に延期となった総会では簡潔な報告をさせていただく予定である。

今後の予定・計画について

本年度の事業については、新型コロナウイルス感染症の動向を考慮し予定の変更がありうることをご承知おき下さい。予定変更はHP掲載等の方法でお知らせいたします。

1. 学習・研修の充実 (会則第2条【趣旨・目的】・第3条【事業】に基づく)

(1) 講演会

◎人々の心に残る普遍的内容・時局のテーマ・講師による講演会を企画し、会員の学びの場

とするとともに、広報のツールとして活用する。

①第1回講演会 (延期とした定期総会)

◎日時：2021年11月5日 金曜日
名古屋ガーデンパレス

◎講師：内橋 克人 氏

◎仮題：「生きる豊かさを求めて」・「生きる・働く・暮らす」等

※講演形式・リアル講演あるいはオンライン形式など講演者と調整します。

リアル講演形式では新型コロナウイルス感染症拡大予防のため人数限定の企画となる予定。

②第2回講演会

◎秋頃を目処に、愛知東邦大学地域創造研究所等との共催で講演会開催を検討する。

※当面新型コロナウイルス感染症の動向を考慮し、上記講演会成功に傾注する。

③第3回講演会 (名刺交換会)

◎2月に予定している名刺交換会開催時に、法人会員向けの講演会を開催する。

◎日時：2022年2月中旬 名古屋東急ホテル

◎講師：金子勝氏交渉中

(2) 研修・講座企画

◎会員の方々を中心に、多様な興味・関心に応える研修会・講座を企画し、研鑽を積む機会とするとともに交流の場としても重視する。また、より多くの会員や地域の皆さんに参加していただくために、年間計画を立てて準備

株式会社イープロ 愛知東邦大学・東邦高等学校の
皆さんの学校生活をサポートいたします。

各種メーカースポーツ用品・東邦くんグッズ・東邦さわやか水のほか、さまざまな商品を取り扱っております。お気軽にお問い合わせください。

〒465-0097 名古屋市名東区平和が丘3-11
愛知東邦大学内
TEL052-781-8011 FAX 050-3737-2134
E-mail: info@epro-co.com

ビル総合管理 学生食堂運営
建物清掃、電気設備の運転保守、調理、貯水管理、人材派遣
インテリアデザイン、設備設計・施工、フードサービス、コンビニ運営

「LIFE・ENVIRONMENT CREATIONS」
生活環境を創造する

エヌビーエス株式会社
〒466-0008 愛知県豊田市長久第11号
名古屋営業所 〒466-0008 愛知県豊田市長久第11号
TEL 052-938-8000 FAX 052-938-3019

三菱電機株式会社 代理店
新電元工業株式会社 特約店

EH エリックヒシキ株式会社

代表取締役社長 下出啓介

本社 〒465-0093 名古屋市名東区一社四丁目22番地
TEL (052) 702-2021 FAX (052) 704-3131
岡崎営業所 〒444-0075 岡崎市伊賀町三丁目25番地
TEL (0564) 21-6792 FAX (0564) 21-6838

を進める。

①自然と親しむ会

◎四季や自然を楽しむ日帰り小旅行を企画・開催する。

②法人会員向け特別講座

◎大学の各学部の知的財産を活用する講座開講を模索する。

③個人会員・家族向け講座、地域向け講座

◎会員が家族参加できる企画・講座や学園施設を有効利用しての開講を追求する。

◎地域住民の方々や会員の皆様に学園への理解をより深めていただくために、高大の学園の特色を生かした講座開講を追求する。

◎地域住民の方を講師に招いた講座開講を検討する。

④その他

◎法人会員あるいは高大の専門性を活かした「一日研修」企画を検討する。

行う。

(2)大学・高校の各クラブ等への激励と支援

◎大学・高校のクラブ活動等を支援するため、全国大会等に出場するクラブ等に対して、激励金を支給する。

(3)高校、中学生対象英語「プレゼンテーションコンテスト」、教育と探求社主催「クエストカップ」全国大会出場への支援

◎高校で開催される中学生対象の英語プレゼンコンテストに協賛し、援助金を支給する。

◎高校キャリア教育ですすめられている「クエストカップ」全国大会出場に対し援助を行う。

(4)学園主催の「納涼音楽祭」への協賛

◎恒例となった8月最終土曜日高校中庭開催の音楽祭の援助・充実を支援する。

(5)「奨学金基金」の資金積立再開

◎「奨学金基金」を継続的に予算立てし、積み立てを開始する。

(6)その他

◎大学・高校のその他の教育活動に対して後援・支援する。

2. 交流の充実 (第3条第2項【趣旨・見解】)

(1)名刺交換会等

◎法人会員同士が名刺交換を通じてビジネスの場を拡大する機会とするとともに、法人向け「講演会」をセットで企画する。

(2)TOHO スポーツイベント協賛

◎年々、盛んになっている、学生が地域の方々と協力しながら企画・運営していく「TOHO スポーツイベント」に対して支援を行う。

(3)その他

◎会員同士や地域の方々との交流を深められる企画を検討し、事務局判断で随時開催する。

3. 学園の教育活動支援 (第3条第3項【趣旨・見解】)

(1)学内企業展・インターンシップ企画への協力

◎法人会員・大学と連携し、学内企業展への参加、インターンシップ受け入れの橋渡しを

4. 会報「みどりの風」と会員名簿の発行 (第3条第4項【趣旨・見解】)

(1)会報「みどりの風」の発行

◎51号の発行を8月、52号の発行を2月に予定する。会員に対して寄稿を依頼し、会員が楽しみにする紙面づくりの工夫をする。また、会報誌に会員広告を掲載することにより、広報の機会を提供する。

(2)会員名簿の発行

◎原則5月あるいは総会開催時発行とする。

(3)HPの充実

◎HPをリニューアルし、更新を丁寧に行い充実を図る。

 **ナゴヤ学生服販売株式会社**

天白店 TEL:052-838-9622
https://www.cliche.cc/ 

☆毎週月曜日は便利な**学校出張サービス!**



大林組

5. 会員拡大に取り組む

- ◎独自のリーフレットを作成し適宜フレンズ・TOHOの広報・加入促進等に努める。
- ◎大学・高校に担当者を配置し「声かけ」を行う。

6. 組織体制・事務局の改善に努める

- ◎安定的な役員体制の整備に努める。
- ◎事務局体制の見直しを図る。

以上

2021年度 フレンズ・TOHO 事業予算書

2021年4月1日から
2022年3月31日まで

(単位：円)

項 目		予 算	
収 入 の 部	①前期繰越金	2,939,005	
	②年会費	法人会員 (131社×2万円)	2,620,000
	〃	個人会員 (144名×5千円)	720,000
	③入会金	法人会員 (5社×1万円)	50,000
	〃	個人会員 (10名×3千円)	30,000
	④広告収入	みどりの風 (51号・52号分)	800,000
	⑤受取利息		100
	⑥講座・研修参加費	研修参加費・講座受講料など	100,000
合 計		7,259,105	

項 目		予 算	
支 出 の 部	①事業費	講演料・研修・親睦活動	1,700,000
	〃	その他 (援助金・祝金等)	330,000
	〃	総会・懇親会・名刺交換会	1,500,000
	②会議費	運営委員会・役員会等	200,000
	③印刷費	会報	350,000
	〃	名簿作成費	80,000
	〃	封筒・振込用紙等	60,000
	④通信費	会報発送・webメンテナンス	350,000
	④-1 通信費	webリニューアル費用	350,000
	⑤事務費	事務費・交通費・手数料等	50,000
	⑥予備費		200,000
	⑦設立30年記念事業積立金		200,000
	⑧奨学基金積立金		300,000
⑨次期繰越金		1,589,105	
合 計		7,259,105	



川北電気工業株式会社

本社 〒460-0008
名古屋市中区栄四丁目6番25号
☎ (052) 251-7111 (代表)



ENVIRONMENTAL ENGINEERING

空気と水の環境創造企業

三建設備工業

●名古屋支店 / 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南2-14-19 住友生命名古屋ビル23階
☎ 052(561)4101 <https://skk.jp>



今回は私が東邦学園にお世話になった平成4年当時の学園の課題とフレンズ・TOHO誕生の経緯などについて、表舞台だけでなく、楽屋裏にも踏み込んだ形で記していきたい。

◆当時の学園の課題など

平成4年当時の学園の課題は、第一に翌年の創立70周年記念事業への取り組み、すなわち記念行事の実施および70年史の編纂であった。これについては先の「私と東邦学園(1)」に触れたのでここでは繰り返さない。

これに加えて「70周年記念募金」があり、さらに短大内では大学設置構想委員会が設けられ、法人本部はこれらの事務局を務めていた。

手短かにいえば四大構想は、当時は島津学長案と教員3氏による案の両論併記で提出され、私がこの2案を比較してまとめた記憶がある(詳細については、現在私の手元に資料はない)。

また四大の用地問題については、私が東邦にお世話になる2年ほど前に、「日進町(現日進市)の山林はどうか」と、東邦OBの絡んだ業者(いかがわしい業者)から話が持ち込まれ、一時はこれに振り回される事態になった。いずれにしても四大構想は

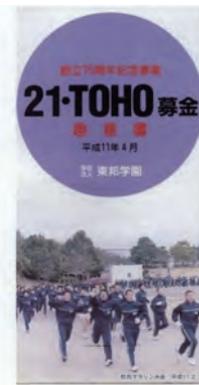


学園報の大学開学記念号(平成13年6月18日)

暗礁に乗り上げたような形になっていたところへ、降って湧いたような話が現れた。

——文部省から将来的な展望として18歳人口の減少していく中で、抑制策の一つとして当時の短大の臨時定員の半数を基に四大に改組転換してもよいというもの。短大では早々に牟礼早苗学長が中心になり、「今後短大のままでいくか、四大を併設か」で全教員にアンケートをとり、その結果四大設置に向けて構想を進めることになった。

一方申請の事務的な作業は、文部省OBの米倉素



21創立70周年記念募金募金(左)と表紙

JTB
感動のそばに、いつも。
株式会社 JTB
教育旅行名古屋支店
名古屋市中村区平池町 4-60-12
グローバルゲート6階
TEL: 052-586-2311

セコム
For your secure days
セコム株式会社
http://www.secdom.com

STARROAD SYSTEM
安全・安心・信頼へと繋ぐサービスを!
役員車・大型バス等の運行管理請負業務
株式会社スターロードシステム
代表取締役 井島 規夫

日本 社 愛知県豊明市寄町町丘下12-1 ユニオンビルズE下2F TEL: (0562)57-4401 FAX: (0562)91-6901
千 葉 支 店 千葉県木更津市太田4丁目20-8 HATANOPIA-1 3F TEL: (0438)40-4861 FAX: (0438)40-4869
名古屋オフィス 名古屋市中区牛島町6-1 名古屋ルーセントタワー40F TEL: (052)569-2956 FAX: (052)569-2959

彦氏を招き、法人及び短大の若手職員でなされたので私はこれには関わっていない。(米倉氏は独善的な性格で学園内での人間関係がうまくいかず、大学設置後に退任された。)

こうした経緯を経て平成13年4月東邦学園大学(経営学部地域ビジネス学科)が誕生した。

◆記念募金の総括と組織づくり

一方、創立70周年記念募金も私がお世話になる前に設けられており、四大構想の一環と繋がっていた。しかし目標金額(20億円?)にははるかに及ばず、この総括として「学園として広く支持される—すなわち募金をされるのが大切であり、そのための組織づくりが必要である」と総括。これによって、学園への友好支援組織の設立へと向かうことになる。

新しい組織づくりは平成7年1月7日、**第1回**の**設立準備会**が開催された。2回目以降、私も出席を求められ、以後資料づくりや記録メモの作成など事務局的な業務を、さらに踏み込んで学内外の人間関係の広がりや営業的な活動にも奔走していくことになる。

同年3月、久野委員が「学園支援母体の組織化の方法と着眼点」と題する研修会に参加。東京へ出張して受講された後、準備室ではこれを参考にして、新しい組織づくりを進めていくことになった。

まずは、会の名称、趣旨、目的など基本的な事項から検討に入った。

差し当たっては、会の名称である。

「フレンズ・TOHO」の名称は、下出保雄理事長の提唱であり、異議なく了承された。

続いて会の趣旨および目的である。

会の精神は、友愛の精神をモットーにしていくこと。また趣旨と目的は、人と人との触れ合いを通し

て色々な生き方を学び、心の拠り所となる生涯学習の場となることを期待したい。この内容を簡潔にして要を得、829字にまとめられた「**設立趣意書**」は、久野秀正先生によるものである。



◇組織づくりと会員の想定

組織づくりに一つの参考にさせてもらったのは、中部大学(前中部工業大学)の「幸友会」という組織である。しかし、この組織は学生の就職先を念頭において作られた組織であろうと推測。フレンズ・TOHOは功利性よりも人間性、すなわち友愛をモットーに人間的な触れ合いと向上を目指していきたい—と意を新たにした。



さて、本会の発足に向けてのステップとして、

- ① 有力な発起人をまず固めること。
- ② 発起人会を開催して基盤を固めること。
- ③ 次いで会員の募集を開始する。(目標として法人会員100社、個人会員200名)
- ④ 設立総会を開催して、本格的にスタート。—という手順で進めることにした。

また、発起人ならびに会員募集に当たっては、下記の層への働きかけをすることにした。

- (特A) 政財界の代表的な人
- (A) 東邦同窓生の有力者
- (B) 東邦OBの有力会員
- (C) 父母会・PTA関係
- (D) 現任教職員
- (F) 上記の会員からの紹介など

◆発起人会の開催

会を立ち上げるには、まずは会を代表する人に発

* 消防設備(保守・点検・施工)
 * 防火対象物・防災管理点検
 * 特定建築物定期調査
 * 建築設備定期検査
 * 防火設備定期検査
 セントラル防災
 Central Disaster prevention co., Ltd.
 名古屋市中川区富田町千音寺西福正3572番地
 TEL 052-431-0711 FAX 052-431-0885

空調・給排水衛生設備工事
 消防施設工事 総合メンテナンス事業
D **ダイト**株式会社
 〒464-0858 名古屋市千種区千種三丁目1番9号
 TEL(052)732-5821 FAX(052)732-5295

飲料 食品 無料Wi-Fiスポット、
 お届けできます。
 自動販売機の設置から運用までトータルサポート
タケショー株式会社
 〒475-0837
 愛知県半田市有楽町7丁目37番地12
0569-23-0511 タケショー
 9:00~17:00 土日を除く

起人になってもらうことである。

平成7年6～8月ころは具体的に候補者をリストアップし、各委員が手分けして理解・賛同を得るための説得に当たった。

8月25日、この結果を持ち寄った状況報告では良い感触を得られたとの報告が多く、発足に向けて意を強くした。特に理事長によって特Aクラスの人を固めることが出来たのは大きかった。

翌平成8年正月明けに、理事長が江崎真澄氏を訪問し、発起人代表ならびに発足後の会長を依頼し、快諾を得ることが出来た。

2月からは発起人会に向けて日程の具体化に入り、4月11日に決定。場所は名古屋ガーデンパレスにした。準備室を設けて以来、一年半に及ぶ緻密な準備の下によろしくこの日を迎えることが出来た。

当日江崎氏が体調不良で欠席されたのは残念だったが、予定の議題は異議なく承認され、設立総会に向けて本格的にスタートした。(当日の出席者は60名)

◆会員募集の活動

本格的な会員募集への働きかけは、設立総会に向けて次のようになされた。

(特A) 政財界の代表的な人——

まずは会の顔ともいべき政財界の代表的な人で、発起人でもある。——これには下出理事長自ら、かつての下出家の全盛時代に関係する企業経営者、ならびにロータリークラブの知人、さらに理事長個人の旧知の人たちを中心に働きかけ、無事に固めることが出来た。

温厚篤実な下出保雄理事長だったが、大橋事務局長によれば——「理事長自らこれまでにない積極的な働きかけで、精力的に説得に当たっておられる」とのことだった。

具体的には、下記の方々である。

江崎 真澄	衆議院議員 (東邦商業OB)
神野 三男	名鉄グランドホテル相談役
安部 浩平	中部電力会長
富田 寛治	大同特殊鋼会長
内藤 明人	リンナイ社長
盛田 慶吉	敷島製パン会長
江口 裕通	アラビア石油相談役
春名 和雄	丸紅会長
若松 信重	東海テレビ社長
永井 譲	新東工業社長
山田 文男	矢作建設社長等々である。

(A) 東邦同窓生の有力者——

この層も発起人でもある人が多い。

平成の半ば頃までは、東邦会の代表的な人は、旧制東邦商業時代および新制高校初期の卒業生であった。旧制2回生の林伊佐武氏を筆頭に、野田公明、稲垣鍵一、山口賢一、堀田勝行、大河内吉行らの諸氏である。

フレンズ・TOHOの有力な個人会員は、学園とのつながりが強いこのクラスと人たちに注目したが、事実会の発足後もこの層の力は大きく、中には法人・個人の両方の会員になられた方もあるほどだった。

(B) 東邦OBの有力会員——

平成5年現在で学園全体の卒業生の数はざっと42,000人(短大・高校・中学なども含む)。このうち旧制商業は3,900人ほどだったが、フレンズの個人・法人の有力会員の多くはこの層によるもの。

——かつては「萩友会」と称して、月例の昼食会の集いが開催されていたという。各学年によって温度差はあってもよくまとまっており、フレンズの会員として期待できそうだったし、結果としてもそうなった。

一方、短大の同窓生は約7,800名ほどだったが、



発起人会で挨拶する下出理事長(4月11日)と盛大に開催された設立総会(7月11日)
(いずれも平成8年・名古屋ガーデンパレスで)

学年ごとのまとまりはあまりなく、同窓会役員クラスの人が会員として加入する程度だった。

(C) 父母会・PTA関係

この層への組織固めには失敗している。

——高校PTAの積極的な活動には注目していたが、当時は高校と短大の間に無言の壁があり、法人から積極的に働きかけようとしたところ、当時の校長は「私の方でやりますから…」ということで、そのままになってしまった。(これがその後大きな失策になり、今日まで尾を引いているように思われる)

一方、短大の父母会は、総会を開催しても10名程度の集まりで、体をなしていなかったし、短大教職員との繋がりも感じられなかった。

(D) 現役教職員

現役教職員は、もっと積極的になってほしかった。確かに東邦の教職員は机上のことについては「真面目」だが、学園に一度就職すれば転勤もなく、ぬるま湯につかったような状態で定年を迎えているように見える。いわゆる外への働きかけや社交性、積極性に乏しく、組合意識も今日より強く、また退職後も高校・短大とも教職員のOBは学園との繋がりが薄い。

従って卒業生が訪れても現役教職員との親しみはない様子で、同窓生同士のつながりはあっても教職員とのつながりは乏しい。

私は、学園を訪れたOBにはできるだけつながりを持つように心がけた。松尾博氏(東邦会の世話役)を通して知り合うことが多かった。その結果、東邦会の役員会や懇親会、さらに各地の支部会にもお呼びがかかり、私も出来得ることは協力し、日常的なつながりを持つようにしていた。

(E) 上記の会員からの紹介など

これは、法人会員などは取引先の関わりなどで紹介されるケースがあったが、個人会員は少なかった。

◆運営委員会の設置

会の活動を具体的に推進していくためには、運営委員会の結成して行っていくことが提言された。

この委員会は、学内と学外委員で組織することになり、ほぼ半数ずつで構成することになった。

学内は事務局メンバーを、学外は発起人の中から特に社会の第一線で活躍しておられる会員(本会の役員でもある)で構成した。

5月11日の第1回のメンバーは、大堀道之、塩沢敏明、堀田勝行、大河内吉行、稲原和夫の諸氏(以上学外6名)。学内は事務局を中心に久野秀正、木下満雄、松尾博、稲垣ゆかり、袴田克彦の諸兄姉、それに竹田善隆、以上の計12名であった。

差し当たっては設立総会への準備を進めること。それ以後は月1回程度委員会を開催し、会の運営を軌道に乗せていくことにした。

◆設立総会の開催

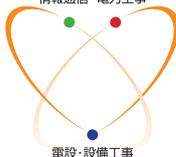
同年7月11日、いよいよ設立総会の当日を迎えた。場所は名古屋ガーデンパレスで135名が出席し盛大に開催された。

会則、行事・事業計画、収支計画、役員選出等の議案は意義なく承認された。このあと桜井修氏(経済同友会幹事)を講師として記念講演会を。続いて懇親パーティが同会場で和やかに開催された。

あいにく江崎会長が体調不良で欠席されたが、これをもってフレンズ・T O H Oは本格的にスタートした。

心をつなぐ、明日を照らす。
情報通信 電力工事

電気・通信・空調・土木工事



中央電気工事株式会社
代表取締役会長 加藤 英和
代表取締役社長 加藤 大策

本社：名古屋市中区栄三丁目14番22号
TEL(052)262-2151(大代表)

DSK

株式会社 電算システム

<http://www.densan-s.co.jp/>

□岐阜本社 岐阜県岐阜市日置江一丁目58番地 058-279-3456
□名古屋支社 名古屋市中区錦3丁目1番1号 052-961-3670

電子の夢を創る



東洋電機株式会社

豊田信用金庫 天白支店

〒468-0053 名古屋市中区天白区植田南2丁目216番地
TEL 052-802-5011 FAX 052-805-5027

ところが12月11日、思いがけなく会長の江崎眞澄氏が急逝された。その結果、急遽神野三男氏（名鉄相談役）に会長職をお願いし、承諾を得てこのピンチを乗り越えることが出来た。以後、フレンズ・TOHOの顔として同会長による功績は実に大きいものがあった。

◆会報「みどりの風」の発行

会報は会員相互のつながりに欠かすことはできない。そこで年2回（総会后と中間総会后）発行することにした。

創刊号は、設立総会当日に発行（平成8年7月11日付）。その内容は、「東邦学園に新しい風」という見出しで、理事長を初め、発起人代表11名からの一言メッセージ、さらに発起人会の開催状況、加えて発足までの18カ月にわたる準備状況を中心に編集した。

題名の『みどりの風』は私の提言。——「学園に新しい風」と「スクールカラーのみどり」にちなんだものである。題字のレタリングも私がフリーハンドで描いた。（私は学生時代に広告研究会に所属し、デザイン等にも打ち込んでいたこともある）



『みどりの風』創刊号（平成8年7月11日）

第2号は、同年11月14日の中間総会に合わせて発行。さらに第3号からは協賛広告（法人会員が中心）を掲載することにした。これが収入の一つの柱になり、フレンズ・TOHOの運営に陰の力となっ

た。広告収集には相当力を入れ、積極的に働きかけて取材に回ったものである。

その結果、『みどりの風』の印刷費は年2回で40万円ほどだったのに対して、広告収入が100万円前後もあったので、差引き60万円の収入を見込むことが出来るようになった。

◆財政面からの視点

フレンズ・TOHOは初年度から学園からの支援を受けず、財政面では健全にスタートすることができた。それにはまず会員数が設立当初からほぼ想定通りに集まったことが大きい。

加えて翌年度から会報の広告収入が加わり、精神的に取材活動をした結果、想定していた以上の繰越金が出来ていった。

発足から5年間の収支状況の主要項目の推移は下記の通りである。

【収入の部】

	法人会費	個人会費	広告収入
平成8年度	1,720	875	0
〳 9年度	1,710	902	930
〳 10年度	1,710	902	1,176
〳 11年度	1,740	875	1,215
〳 12年度	1,780	820	935

（単位：千円）

【支出の部】

	事務・会議・事業費等	次期繰越金
平成8年度	3,859	2,173
〳 9年度	2,726	3,349
〳 10年度	4,098	3,442
〳 11年度	4,109	3,556
〳 12年度	3,902	3,882

（単位：千円）

初年度は発起人会・設立総会の2つの会議で支出がやや膨らんだが、以後は活動を拡充しながら着実に繰越金を出して数々の行事を推進することができた。

こちよさを、ひとつずつ

人と自然を大切にした価値ある製品づくりを

株式会社 トンポ 名古屋支店

名古屋市西区枇杷島1丁目21番30号 TEL.052-562-1741
FAX.052-562-4135

KANKO

未来に、エールを。

名古屋菅公学生服株式会社

私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

◆思い出の活動から

フレンズ・TOHOの初期活動は、各運営委員とともに力が入っており、当初は各会員の興味のある分野ごとに分けて活動を計ってもよいとの思案もあっただけに、立て続けに多彩な行事を施行した。7月の総会以後、年内の5ヵ月間に下記の行事を行っている。

- ・「現代中国を知る会」（加藤紀生氏）
 - ・「企業経営を考える会」（遠山昌夫氏）
 - ・「郷土を探索する会・大須」（伊藤治雄氏）
 - ・中間総会講演：講師・榊直樹氏「今後の政局」
 - ・「心と体をリフレッシュする会」（橋本雅能氏）
 - ・「留学生を励ます会」（支援金を贈呈）
- など、毎月何らかの行事を施行した。



設立当初から初期の活動のなかで、いまなお強く私の脳裏に残っているものを挙げるとすれば、次の三つである。

第一は、設立総会での**桜井修氏**（経済同友会幹事・文部省大学審議会委員）の**記念講演**である。

演題は「21世紀に向けての視点——産業社会と教育を考える」であった。

手短かにその内容を要約すれば、まず当時の教育の問題点を歴史的に捉えて指摘（高度経済成長時代とその後遺症）——すなわち企業の人材採用の在り方と偏差値教育・大学入試を問題視して、今後の意識改革の必要性を訴え、「**学校**」から「**合校**」へ——を提言された。



設立総会で記念講演の桜井修氏

この提言は25年前のものだが、今日でも大いに参

考になる内容だと思っている。（『みどりの風』第2号に講演の速記録を掲載。（→会の発足の頃の講演会は、講師の了解のもとに録音テープで記録し、これをもとに講演録を作成。講師にも目を通してもらって掲載していた）

第二はサークル活動の一つとして実施した「**平和公園を探索する会**」である。

平和公園は本学園の身近にありながら詳しく知る機会はなかなかないもの、地元住民もしかり。そこで講師に舟橋武志士氏（郷土史家で出版社を経営）を招き、平和が丘学区の住民にも回覧板（200枚ほど印刷）で呼びかけたところ、約100名の応募があった。（平成9年4月11日実施、参加者には霊園と墓碑の位置を示した地図を配付）



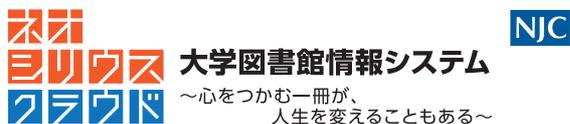
「平和公園を探索する会」で説明する舟橋武志講師

まず、本学で講義を聞いた後、早々に現地を探索。ここは名古屋の歴史の宝庫であり、尾張藩主・徳川宗春をはじめ、平手政秀（信長の守役）、片岡源五右衛門（赤穂浪士）のほか、著名儒学者、茶華人、書画家、医師などの墓が無数に点在している（下出家の墓もあり）。この中の主要なものについて説明を受けた後、自由に散策し大好評を博した。

三つめは**中国旅行**である。

これはフレンズ・TOHO創立10年記念企画の一環で、平成17年11月2日から5泊6日のツアーを実施した。

本会としては今日まで唯一の海外ツアーで、16名（うち4組は夫婦）が参加した。（→堀田勝行氏のPTA会長時代のグループ「あるこうかい」の参加者が多かった）


大学図書館情報システム
 ~心をつかむ一冊が、人生を変えることもある~
日本事務器株式会社 Phone : 050-3000-1604


日本旅行
 NIPPON TRAVEL AGENCY



3日目の万里の長城の集合写真(上)と4日目に訪れた兵馬俑(下)

旅行内容は、観光めぐり（北京→西安→杭州→上海）のほか、現地で中国企業の経営者・加藤紀生氏（東邦OBで本会評議員）と再会し、上海で夕食会を実施。また姉妹校の南京外国語学校の教師らとも交流、さらに案内役の加藤氏によって、観光案内のほか中国人気質やみやげ物を買うときの交渉の仕方なども修得し、思い出に残るものとなった。日中の友好関係も今日より良好で、参加者からは今後ともこの種の行事を実施してほしいとの声が出された。



以上、今回はフレンズ・TOHOの誕生までの経緯ならびに初期の活動を中心に執筆した。

この随想を記すために、私の古い日記を取り出し、約10年分を読み返して心を新たにしながら記述することに努めた。

私が日記を付け始めたのは昭和28年（中学3年）

の元旦からで、今日まで毎日書き続け、やがて70年になろうとしている。記録することの大切さを教えてくれたのは亡き母で、これを参考にしてこれまで家族史も発行することが出来た。

フレンズ・TOHOの設立に向けて奔走していた頃の思い出も、つい昨日のこのように思い出される。当時お世話になった人の多くが、いまは鬼籍に入られ、世代は変わりつつある。年齢のことをあまり言いたくはないが、私も昭和12年生まれで84歳。フレンズ・TOHO誕生の頃に活躍された方々の多くは大正生まれだったので、ご存命でも90代半ばから後半に入っておられる。

現在明けても暮れてもコロナ、コロナのニュースで終始し、フレンズ・TOHOも少なからず影響を受けている。しかし、コロナによって人間関係が崩れることはない。本当のピンチはフレンズ・TOHOの設立の趣旨・目的——すなわち会員相互の新しいつながり、心の拠り所となって「生涯学習の場」になっていく——これが薄らいだ時である。

設立当初の会員が亡くなられていく中で、新しい会員をどれだけ集め、本会の輪を広げていくことが出来るか。原点に立ち返って思いを新たにす時期に来ているように思われる。

今回、「私と東邦学園」というテーマで執筆のご依頼をいただいたが、テーマの範囲が広いので三つに焦点を当てて記述することにした。

最後に課題を残すような形で拙文を終えることになったが、これも会の発展を祈ってのことであり、ご容赦願いたい。

行く春を惜しむ机上の古日記

善隆

(完)


 創業 昭和3年
勝 株式会社花田工務店
 豊橋市中世古町121 <https://www.ha-net.co.jp/hanada/>
 豊橋本店 / 名古屋支店 / 西三河営業所

工業用ゴムプラスチック製品

丸善株式会社
 代表取締役 木村 憲 藏
 本 社 〒460-0022 名古屋市中区金山4丁目3番11号
 TEL (052) 332-0811# FAX (052) 332-3566

社会のスマート化をリードする
三菱電機ビルテクノサービス

株式会社 **ミニミニ**
mini mini 星ヶ丘店

戸崎賢二さんを偲んで

愛知東邦大学名誉教授 丸山 恵也

1月14日、山極完治さんからの連絡により、戸崎賢二さんの突然の逝去を知りました。戸崎さんからは、11日に著書『魂に蒔かれた種子は』（あけび書房、1月8日発売）が、私のところに献本として送られてきて、その内容には愛知東邦大学の学生教育のことが取り上げられていたこともあって、大急ぎで読んで、お礼状と感想文をお送りしたばかりのところでした。

元NHKディレクターの戸崎さんを、愛知東邦大学のメディア論の教授としてお迎えしたのは2002年の春でした。それから7年間、2009年まで、戸崎さんは本当に熱心に学生の教育に携わってこられました。その7年間の貴重な教育実践の成果である本書の紹介を通じて、戸崎さんを偲びたいと思います。

本書は1章「ディレクターの仕事」ではNHKでディレクターとしての教育・教養番組編成のこと、2章「教育を問い直す」では愛知東邦大学の教授としての学生教育のこと、3章「記憶の淵より」では故郷岐阜での小学校、高校時代のこと、4章「命にふれる日々」では奥様が病で倒れた時のことの4章構成であります。なお本書は『妻 克子へ』と、奥様に捧げられております。

最初の「授業の中で青年と出会うということ」では、社会や大学教師の「学生観」或いは「青年観」の在り方を問題にしております。大学進学率50%の時代となり、学生のマナーの悪さから「大学生は小学生か」と社会的に評され、大学教授は事態を嘆きます。しかし、戸崎さんはこの学生観は、「外側から」青年を見ての批判ではないかと考えます。そし

て、このような「視野に入っていない学生の姿を、新任教員1年の体験から、少しでも明らかにしたい」とします。

そのために教育とは何かを問うことから始めます。戸崎さんは「教育とは魂の面倒を見ること」とし、そして重要なことは「こちらの魂も裸にして（青年と）向かい合うこと」とします。教育の対象となるすべての青年には、もともと「感受性」と「学ぶことへの希求」が備わっており、「これがなければ社会で生きていく力を身につけることが出来ないから」とされます。従って、青年の「魂」の「感受性」と「学ぶことへの希求」を呼び起こし、大きく成長することを見守ることが教師の役割となります。

まず授業への学生参加ですが、学生が積極的に授業に参加してくるような変化をもたらすためには、教材が持つ力とリアリティが必要であり、その教材を媒介に教師と学生の間に対話と応答が成立します。「この際の対話とは…その内容に本質的な、しかも考えがいのある問いかけが含まれていれば、学生は聴きながら次々に問いを自らに投げかけ、追及していきます。」「これだけはという強いメッセージ」があれば、学生に言葉が届きます。しかし、「落ち着いた学生も、授業に参加できる授業をつくる」ことは、まさしく教師の「格闘技」のように困難な課題であります。この課題には、「何のために学ぶか」という基本問題が横たわります。

「何のために学ぶか」この問いに答えられる学生は、最近では、ほとんどいません。戸崎さんは、その原因として、学ぶ目的が、これまで常に学生の『外

Planners Land

株式会社プランナーズランド

学校業務のスペシャリストとして
コンサルティングから導入・運用サポートまで
システムをワンストップに提供致します。

〒460-0008 名古屋市中区栄5-25-6
TEL:052-265-2930 FAX:052-265-2931
<http://www.planners.co.jp>

meitetsu
名鉄百貨店

Rinnai

側』という社会的環境にあったと指摘します。学ぶということが「試験に合格」「就職のため」というような「人生の手段」になってしまってきたのです。

元宮城教育大学学長で哲学者の林竹二氏は、学ぶことの意味を次のようにいいます。「学問は己の為に。それは利己の意味ではなく、己を形成するためである。学問をすることで、真理を探求する奥深い喜び、自分が学問することで成長し、変わっていているという自覚ができる。人間はそのままでは人間になることができず、学ぶことによって初めて人間になる。人間だけが学ぶ意思をもって、自分の生き方を決めることができる。」

戸崎さんは大学最初の授業で、上記の林氏の言葉が入ったNHK当時の担当番組『授業巡礼』を学生に視聴してもらい、自分の思いも語った上で、感想を書いてもらいました。その感想文を読んで、戸崎さんは次のような指摘をされております。「おそらく学生たちにとっては、林竹二の名は初めて、観たこともないタイプのビデオであったと思う。しかし、学生の感想を読んでいくと、実に正確に、しかも豊かな感性で、林先生の授業の持つ意味、番組の意図を受け止めているのかに驚かされます。また多くの学生に見られるのは、これまでの、そして現在行われている教育に対する、強い不満です。「私はこのような感想に接して、青年たちが、実はほんとうの『学び』を求めていること、現状に深いところで満足していないことに改めて気付かされました。」「モラルの低下、学力の低下、というステロタイプな視点だけでなく、青年たちの内部に渦巻く不満や要求を丁寧にみていく必要があると痛感しますし、同時に、このような感想を書く学生の存在に大きな希望を感じます。」

また戸崎さんは、学生・青年を「変化する者、いわば成長への『途上にある人間』としてとらえる視点」が大切であることを強調します。例えば、毎回授業への学生の感想文は「わずか4か月くらいの講義期間に、初期の感想が次第に深まり、より長文になる、という学生の例をいくつも経験」したことを挙げております。なかでも、A君の事例は感動的です。A君は授業中に私語を続けて注意した学生の1

人でした。最初の感想は僅か2行で、しかも授業への罵倒に近いものでした。しかし、授業と感想の回数が増える度に、授業で提起した問題に正面から向き合う内容になってきました。このことに対して、戸崎さんは「隠された『学びへの希求』」として次のように述べています。「A君がこのように変化したのは、教員の経験も研究者の実績もない授業者の力によるものでないでしょう。A君自身が、本来持っていた自分の力を引き出していったものと思います。」

大学教師は、現代の青年の魂に「種をまく人」であって欲しいと思います。

戸崎賢二さんの略歴及び業績

1939年岐阜県に生まれる 名古屋大学法学部卒
1962年NHK入社 ディレクターとして教育・教養番組制作 2002～09年愛知東邦大学教授（メディア論）「放送を語る会」運営委員 2021年1月11日逝去

研究業績

著書『魂に蒔かれた種子は』（2021年、あけび書房）
『NHKが危ない』（2014年、あけび書房、共著）
論文「放送の自立と責任を求めて」（『NHK番組改編裁判記録集』解説日本評論社2010年）「NHKへの政治介入疑惑とテレビ制作者の権利」（『東邦学誌』35巻第2号、2006年）「テレビ番組における取材対象者の権利について—『NHK1裁判』最高裁判決を批判する」（『東邦学誌』37巻第2号、2008年）「『NHK番組改編事件』と『編集権』」（『立命館産業社会論集』45巻第2号）

担当番組

「NHK文化シリーズ・文学への招待」（宮沢賢治、石川啄木、高見順、与謝野晶子、長塚節、小川未明などのシリーズ担当）、「NHK文化シリーズ・美をさぐる」、NHK教養セミナー証言現代史（丸岡秀子「都留重人」、NHK教養セミナー終戦記念日特集「大岡昇平・時代への発言」、ETV 8「授業巡礼—哲学者林竹二が残したもの」、NHK市民大学「田中正造—民衆から見た近代史」他。長期取材ドキュメンタリー「若き教師たちへ」「教師誕生」「土に学びこころを耕す—今西祐行農業小学校の1年」など。

編集後記

『豊かさとは』と題した11月5日延期総会記念講演、内橋克人先生の講話から大きな触発が必ずや得られます。新しい世界観との出会いこそが新しい生き方を開き、いい

仕事の核になる。フレンズの役割の大切な部分はその「出会い」。ぜひ11月5日に眼を見つめ言葉を交わし合えることを切望しています。(M)